

## 博愛の里でとうがんとふるさとづくり (平成22年度認定)



県内でも有数のとうがん生産を誇る宮古島市は、平成18年に宮古島市として全域の産地協議会を設立し、強固な生産の産地としての体制を整え、平成19年にとうがんの拠点産地としての認定を受けた。

その中で、会員52名のJAとうがん専門部会上野支部は上野地区を拠点に活動しており、宮古島市全体の7割を占めるほどの生産量を誇り、とうがんの栽培に関してはベテラン揃いである。良質のとうがんを作るため、日頃から徹底した栽培管理を行っており、地域の産業まつりや県の表彰を受けるなど、部会員の活躍がみられる。

また上野支部はさらなる栽培技術向上のために、講習会や現地検討会を開催し、これまで以上の生産販売量を目標に掲げ、【博愛の里でとうがんとふるさとづくり】に取り組んでいる。

